

<報道関係者各位>

2025年5月21日
東京農業大学

東京農業大学で「昆虫食セミナー2025」開催 “農大マルシェ”でアゼルバイジャン食品の販売も 【ご取材のご案内】

日時：6月28(土) 10:00-12:00 (10:30頃～報道受付開始)

場所：東京農業大学 国際センター2F「榎本ホール」他(東京都世田谷区桜丘 1-1-1)

東京農業大学 生産環境工学科 バイオリボティクス研究室は6月28日(土)、東京農業大学(世田谷キャンパス) 国際センター2F「榎本ホール」で「昆虫食セミナー2025」を開催します。さらに国際センターの芝生エリア付近では「農大マルシェ」を開催しており、アゼルバイジャン食品の販売を行います。

「昆虫食セミナー2025」は東京農業大学の「バイオリボティクス研究室」、ネオアクシス、農業情報学会「代替タンパク質・アグリテック研究部会」が共催。NPO 法人昆虫普及ネットワークの内山 昭一 理事長、TAKEO 佐伯真二郎 CSO、FUTURENAUT 櫻井 蓮 CEO が登壇する他、交流会を通じてコオロギ食品を中心とした昆虫食の有用性、安全性や美味しさを参加者に伝える事を目的に実施する体験型のイベントです。

また、株式会社農大サポートが定期的で開催している農大マルシェも同時開催。「バイオリボティクス研究室」がアゼルバイジャン食品の販売を実施します。「バイオリボティクス研究室」は日本とアゼルバイジャンの農業・食文化交流を目標としたプロジェクトに取り組んでおり、研究室に所属するアゼルバイジャンからの留学生・Oruj Orujov さんがアゼルバイジャンの農業や食文化を伝えます。

報道関係者の皆様、6月28日(土)の「昆虫セミナー」および「農大マルシェ」を、ぜひご取材ください。

※ご取材いただけます場合は本案内状の「取材申込書」より、前日の6月27日(金)12:00までに東京農業大学 学長室 企画広報課までメール等にてお申し込みください。

昆虫食セミナー2025

【日時】6月28(土) 10:00-12:00 (10:30頃～報道受付開始)

【場所】東京農業大学(世田谷キャンパス) 国際センター2F「榎本ホール」

【共催】ネオアクシス、農業情報学会「代替タンパク質・アグリテック研究部会」、東京農業大学「バイオリボティクス研究室」

【内容】

- 挨拶・司会(高崎経済大学 飯島 明宏 教授/東京農業大学 佐々木 豊 教授)
- 「伝統と現代、そして未来へー日本ではどんな昆虫が食べられてきたかー」
NPO 法人昆虫食普及ネットワーク 内山 昭一 理事長
- 「ラオスから見る昆虫栄養のポテンシャル」TAKEO 佐伯真二郎 CSO
- 「食用コオロギは主流化できるのか～生産・消費と社会理解の醸成に向けて～」FUTURENAUT 櫻井 蓮 CEO
- 交流/意見交換など

※写真左から内山理事長、佐伯 CSO、櫻井 CEO



< 本件に関するお問い合わせ先 >
東京農業大学 企画広報課

TEL: 03-5477-2650 / FAX: 03-5477-2804 / Email: info@nodai.ac.jp

佐々木 豊 教授(バイオリボティクス研究室)

■プロテインクライシスと昆虫食への期待

人口増加などから早ければ 2030 年からプロテインクライシス(タンパク質供給量不足)が起こることが世界的に指摘されており、その解決の一つとして「代替タンパク質」というキーワードが挙げられています。「代替タンパク質」は植物性・細胞培養・藻類・微生物など多岐に渡り、その一つが「昆虫代替タンパク質」です。

昆虫活用の良い点は、従来の家畜と同等以上のタンパク質を含むだけでなく、温室効果ガスを排出しない、省スペース生産で効率的に生産が可能であることに加え、特にフードロスなどを活用して植物性のももタンパク源に変換できることであり、かつ昆虫のみならず、その糞(フラス)なども活用できて廃棄するところがなく、循環型農業生産に適していることとなります。



元来世界中で伝統的に昆虫食が存在しており、FAO が提唱しているように昆虫の活用が今後の食料、環境、エネルギーの解決方法の一つになることが期待されています。

将来的に宇宙農業をも想定し、昆虫を代替タンパク質として食料、家畜生産や養殖用の飼料タンパク源、肥料タンパク源に活用することは重要と考えますし、世界では市場化も含めて研究・開発が積極的に行われています。

「バイオリボティクス研究室」とは？

「バイオリボティクス研究室」は東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科に設置されている研究室で、総合工学としてのロボティクス(ロボット工学)を活用し、食・環境・農業・社会問題の解決を目指しています。「スマート農業&フードテック&クリーンエネルギー」をキーワードに以下の様な研究テーマに取り組んでいます。

- ・ 昆虫代替タンパク質を活用した循環型農業生産システムの開発
- ・ 植物・昆虫・キノコ用 Agri-CPS プラントの開発
- ・ 海洋生態系・ブルーカーボンのための水中ドローンのロボティクス活用
- ・ 総合管理型農業ロボットの研究・開発
- ・ スマート養蜂装置開発／野生獣用スマートトラップの開発
- ・ ハーゼルナッツ殻を活用したバイオコークスなどのエネルギー生産の検討
- ・ 小水力発電・ハイブリッド型再生可能エネルギー研究

昆虫食品クロステックコンソーシアム「ネオアクシス」



「ネオアクシス」は 2021 年、高崎経済大学・飯島明宏教授と東京農業大学・佐々木豊教授により共同提案されて設立。様々な分野の技術(X-tech)のシナジーによって持続可能な新しいフードサイクルの実現を目指す、オープンイノベーションの舞台です。昆虫(コオロギ等)をハブとした、新しい農業システム、資源・エネルギー循環、フードサービスの融合と、それらの社会実装に必要な枠組みについて探究し、食と環境をめぐる諸課題を解決に導くための「NeoAxis(新機軸)」となることを目指しています。

定期的に開催されている“農大マルシェ”

農大マルシェは株式会社農大サポートが主催・運営し、毎月第4土曜日、東京農業大学(世田谷キャンパス)芝生エリア付近で開催されています。

東京農業大学の卒業生や学生団体を中心に出店者が集うマルシェで、一般の方にも公開され、気軽に東京農業大学の魅力をお楽しみいただけるイベントです。

※写真は会場の国際センター芝生エリア付近



アゼルバイジャンからの留学生・オルジュさん

「バイオリボティクス研究室」ではアゼルバイジャンからの留学生・オルジュ(Oruj Orujov)さんを中心に、日本とアゼルバイジャンの農業・食文化交流を目標にプロジェクトを進めています。その一環としてアゼルバイジャンの代表的な農作物のヘーゼルナッツと、日本由来の「柿」のドライフルーツなどを中心としてアゼルバイジャンの紹介をしながら農大マルシェでアゼルバイジャンの食品を販売します。

■オルジュさんの目標

私にとって東京農業大学で学ぶことは持続可能な農業、スマート農業、そして伝統的な食料システムの分野において、高度な知識と実践経験を積むまたとない機会となっています。天然資源と農業の伝統に恵まれたアゼルバイジャン出身の私は、日本の革新的でありながら文化に根ざした農業へのアプローチを学ぶことが、母国が抱える課題の解決に大きく貢献できると信じています。

私の留学の目標の一つ目は、環境に優しいスマート農業といった日本の農業技術が日本でどのように活用されているか、そしてそれをアゼルバイジャンの多様な気候帯にどのように適応させることができるかを探求することです。二つ目の目標は、日本の文化、食文化などについて学ぶことです。アゼルバイジャンにも豊かで多様な食の伝統があり、私は両国の架け橋となり、広くアゼルバイジャンの農業や食文化を紹介しつつ、科学、イノベーションにおける協力を促進したいと考えています。



東京農業大学 企画広報課 行

※恐れ入りますが、6月28日(金)12:00までにご連絡ください。

昆虫食セミナー2025・農大マルシェについて

① 取材者

貴社名	部署	ご芳名
		(計 名)
TEL	FAX	MAIL
※お越しになるお時間 (時 分 ~ 時 分)		

② カメラ

ENG / ムービー	有(台) ・ 無 ※三脚 有(台)
スチール	有(台) ・ 無

③ 掲載・放送予定 令和 年 月 日 発売/放送(媒名:)

④ その他のご要望

--

※当日はお名刺をお持ちください。

※free-wifiのご用意はございません。

※内容は一部、変更となる可能性がございます。

※カメラ(スチール、ムービー)による撮影は可能ですが、学生や一般のお客様については当日、口頭で撮影許可を頂く必要がございます。

※本イベントで撮影された映像及び写真は本イベントの報道を目的とした使用に限らせていただきます。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

東京農業大学 企画広報課

TEL: 03-5477-2650 / FAX: 03-5477-2804 / Email: info@nodai.ac.jp